



・石工の道具 昔は鉄の道具が石工の命、朝から鍛冶仕事をやって、その日の仕事で使うものを鍛えて、鋼（はがね）にした。でも半日で使ってしまい、午後にはまた鍛冶仕事をやっていた。今は、超合金のものになって、ヘリが遅く効率が上がった。一日8時間石に向かえる時代になった。朝の鍛冶仕事はなくなった。ダイヤモンドカッターが一番働いてくれる道具。ダイヤモンドで削ったあと、最終はハビシャンで細かい直線、こぶを作る。ひと手間かける。



・岡崎石工の狛犬 豊田市六所神社は、徳川家の発祥の地、そこに元禄の文字がみえる狛犬がある。それから、約200年、岡崎石工は狛犬を彫っていない。幕末に宝珠型狛犬が彫られるようになった。「諸職画鏡（しょしょくえかがみ）（寛政7年）」が江戸から伝わった。これに載っている宝珠狛犬を岡崎石工が好んで彫った。

・明治維新に神社統廃合が進んで奉納が増えた。大正から昭和の初めがピーク。岡崎石工が伸びた。宝珠狛犬の角と宝珠の位置は、左右どちらが正しいかわからない。高松にも宝珠狛犬がい

る。金毘羅にもいる。自分もこの宝珠狛犬の復活を目指している。

岡崎石工作者不明の狛犬、明治の30年代から大正初め、この形の狛犬を量産していた石工、名前が確認できたのは二対のみ、『神谷半助』『田淵徳太郎』

15



・岡崎石工の彫った狛犬 燈籠などを彫っていたので、脚を抜く技術はあった。阿形の口の中を抜くだけでノミを5~10本使ったと言われている。石工は20歳で彫り始めて、50歳前後で引退する。なので、10~15年は狛犬を彫る時がある。片手間に仏像、狛犬を彫っていたらう。今だに守られているのっぺりとした体つき、太い一本の尾。

岡崎型狛犬(孫兵衛狛犬)大正初期に酒井孫兵衛により創作された、岡崎型の元になる狛犬、百年間職人により彫り続けられている。

17



・酒井孫兵衛6代目は息子二人に彫らせた。ほり続けて13年作り込んで火の打ちどころがない狛犬になった。この割寸をきっちり教え、誰がつくってもこれに近い型でできる。味つけは、独特に。早いしきれいにできる。明治の終わり~大正、物産展に持って行った。これが大量に売れる原点。

・今井新太郎 子付き玉持ち 耳のへの字が特徴。大正時代にこれだけ彫れた。名古屋石工の影響を受けている。一台限り。

最新の道具、工業用ダイヤモンド・エアーツール等で彫られている現代の狛犬、ダイヤモンドで削った跡は手彫りの道具で極力、削り直してます

19



・(綱川氏)自分の作品例。岡崎花崗岩は柔らかい。夏山という石で、どこまで彫れるかやってみた。籠彫(カゴボリ)も玉の中に玉がある。今は、花沢という石で彫っている。硬い石はシャープに彫れる。花崗岩は難しいが残る。硬ければ500年もつ。狛犬はあまざらしが前提のもの。エアーツールとダイヤモンドカッターで彫って、手でその後を隠している。中国製はつるつるしている。手掘りに戻している。

江戸時代になり狛犬奉納の動きが

- 赤 知多半島の狛犬 江戸狛犬・浪速狛犬・地元石工の混同地区
- 青 愛知西(名古屋含む)狛犬 大阪石問屋が扱う浪速型狛犬
- 黄 愛知東(三河)の狛犬 時代・デザインはバラバラだが岡崎石作

20



・愛知県の狛犬は知多半島が一番古い。江戸(はじめタイプの延宝6年1678がいる。)大坂、西讃(多度津)の古いものがある。江戸時代のは運ばれたもの。知多半島に岡崎石工の狛犬が奉納されるのは、明治以降。

次のブームは名古屋地域、一宮市に川船で石材が運ばれた。名古屋には江戸時代のは少ない。明治以降のものしかない。150年経つと砂岩系は崩れて、代替わりしている。

名古屋石工の活躍、明治中期から大正末奉納ピーク。昭和になると田舎に仕事に移っていった。

明治以後・モデルチェンジした浪速狛犬を名古屋石工
『荒木弥助』が彫った名古屋型狛犬、明治中期から大正
末まで一代限りの石工。

25



荒木弥助、明治 33～大正がピーク。筋肉質で独創的な狛犬、一代のみ。

江戸時代から続く尾張藩御用石工 角田六三郎
清須市土田1-11-13 『神明社』 大正03/08

26



角田六三郎、清洲市に作品ある。ごつごつした狛犬。

S17-20 彫っていない。S35～名古屋石工は戦後はほとんど作っていない。



名古屋石工の尻尾、バリエーションが豊富。派手。浪花狛犬の影響ある。

名古屋東照宮 M33 花崗岩でこれだけ彫れるんだ「なんでM33にこんな狛犬が彫れる職人がいたんだ」と思うぐらいよくできた狛犬。子付きは名古屋石工が好んで彫った。

職人になって、2年は道具の使い方、作り方、3年目から彫り始めて10年目以降うでのいい職人が狛犬を彫る。比べると、きっちり彫っている職人。仕事が逃げている職人というのがわかる。



戦前の狛犬奉納

仲買（なかがい）の人の活躍があった。

カタログを作り全国の博覧会に出展、石材店へ営業した。製造部門と販売部門が分業化されていた。

平成の頃中国の製品にスイッチした。



孫兵衛狛犬第二、作者不明の狛犬。S33以降この人の狛犬は見なくなる。
この人が生きていたなら着いて習いたかった。



成瀬狛犬、サンダー仕上げでここまで彫れた。中国にまねされてしまった。
毎日彫るからいいものができる。手を止めたら腕が落ちる。石工は過酷な労働
現在の狛犬事情

(綱川氏) 電話で見積もりを受ける年 15-20 件
20-40 組が (日本の年間) 狛犬市場このうち半数以上は中国製品になっている